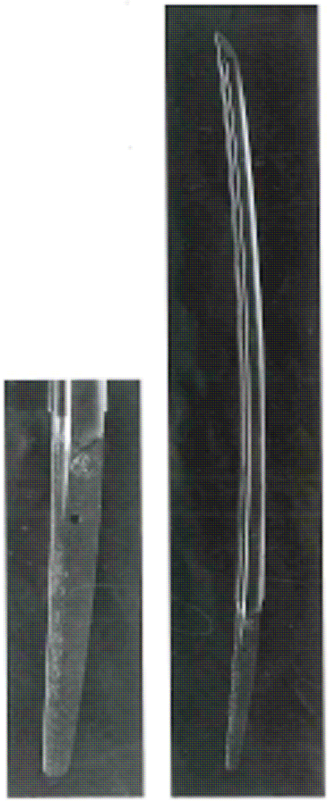
刀　銘（一葉葵紋）主馬首一平藤原安代

遙奉　鈞命於薩州作之　享保甲辰年

【所　在　地】鹿児島市城山町７－２　県歴史資料センター黎明館
【種　　別】県指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】昭和 58 年４月 13 日



法量　長さ 76.1cm，反り 1.5cm
形状　鎬造り，庵棟，身幅広く，反り浅く　中鋒，
鍛え　板目肌流れ，地沸よくつく。
刃文　直刃調に浅く湾れ，
帽子　直に掃掛け，沸つき尖りごころに返る。
彫物　表裏に棒樋かき流す
茎　　生ぶ，鑢目は桧垣，目釘孔１個。

一葉葵紋のヒナ型

刀：銘　（一葉葵紋）主馬首一平藤原安代
遙奉　鈞命於薩州作之　享保甲辰年

主馬首一平安代は薩州刀工山城守安貞の子で，玉置小市といい，大和守安定の門に学ぶ。享保６（1721）年には，宮原正清とともに将軍吉宗に招かれて江戸浜御殿で鍛刀，一葉葵紋を賜わり，主馬首に任ぜられた。この刀は，その後享保９（1724）年，正清とともに再度の命により鹿児島で鍛え，翌 10 年３月，幕府に献じたものである。

銘の上に切られる一葉葵紋は，安代が享保６（1721）年に将軍吉宗の命により江戸浜御殿で力を打った時の功により許されたものであるが，この紋のヒナ型は将軍家から賜わったもので，現在も玉置家に当時の古文書等と共に大切に保存されている。これ以後安代の打った刀に切られる一葉葵紋は，このヒナ型を手本にして切ったものである。